

《薬局サーベイランスコメント》

『インフルエンザの累積の推定患者数は 1000 万人を上回ったものの、第 6 週(2 月 4 日～10 日) の患者数は約 102 万人と 2 週間連続して減少。今後さらに減少していくものと予想』

2019 年 2 月 12 日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

今シーズン（2018/2019 年シーズン）の 2019 年第 6 週（2 月 4 日～10 日）のインフルエンザの推定患者数は、1,016,041 と前週の値（1,678,217）よりも減少し、2 週間連続しての減少となりました（図 1）。第 7 週（2 月 11 日～17 日）は更に患者数の減少がみられるものと予想されます。

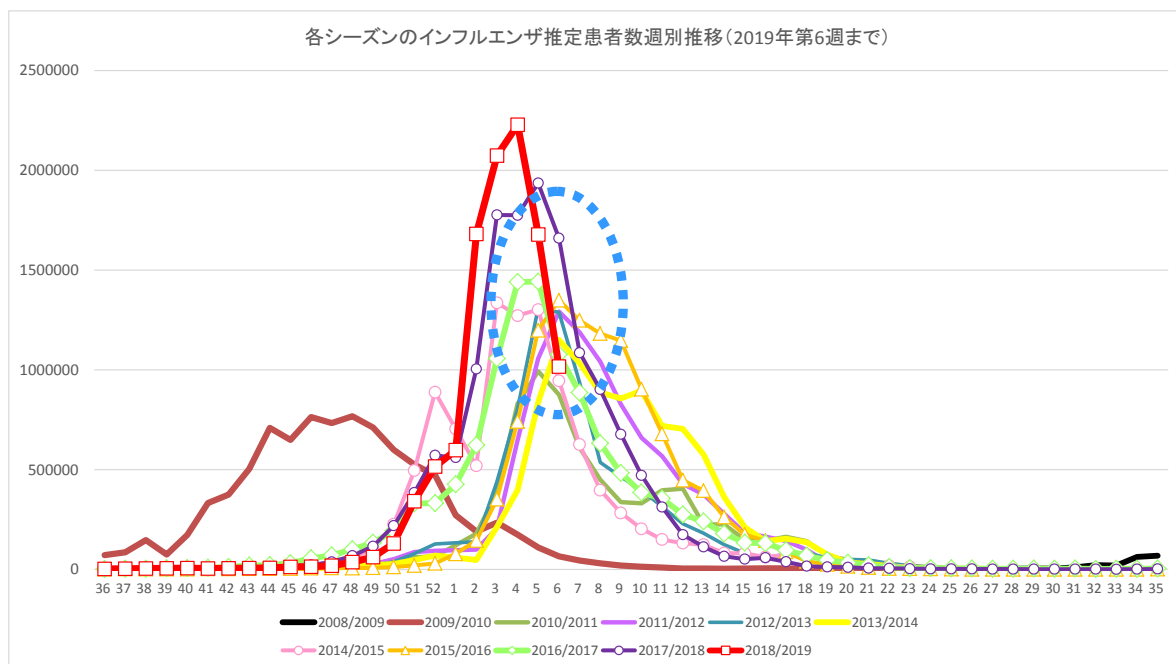


図 1. 過去 10 シーズンと今シーズン（2018/2019 年シーズン）の第 36～第 6 週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2019 年第 6 週の推定患者数：1,016,041）

各都道府県別の第 6 週の人口 1 万人当たりの 1 週間の推定受診者数をみると秋田県、福井県、北海道、栃木県、大分県、徳島県、奈良県、広島県の順となっており、47 都道府県全てで前週よりも減少が見られました。

2018 年第 36 週から 2019 年第 6 週までの累積の推定患者数は 10,448,891 と全シーズンと同様に第 6 週までで 1000 万人を上回り、2018 年 10 月 1 日現在の人口統計を元

にした累積罹患率は 8.25%でした。年齢群別での累積罹患率は 5～9 歳（27.56%）、10～14 歳（20.31%）、0～4 歳（19.28%）、15～19 歳（10.86%）、30～39 歳（8.65%）、20～29 歳（8.18%）、40～49 歳（7.66%）、50～59 歳（6.23%）の順となっていて、例年と比べると成人層の罹患率が高い状態が続いています（図 2）。

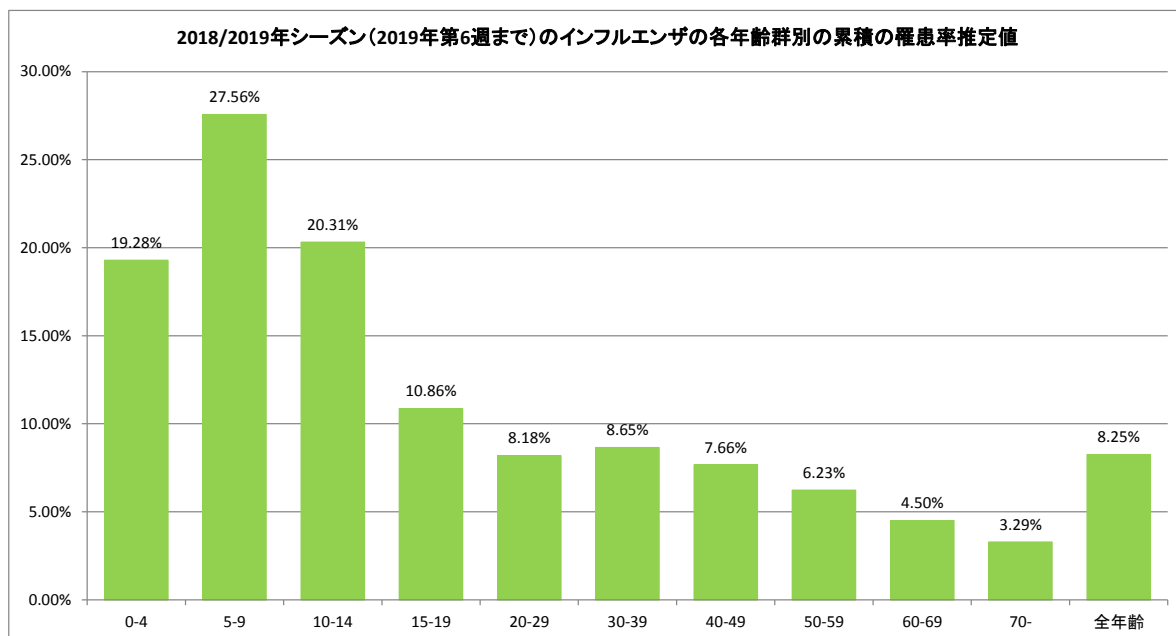


図 2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値（2018 年第 36～2019 年第 6 週、累積推定患者数=10,448,891）

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>) によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（1,866 検体解析）は、A/H1pdm が 58.8%と多く、次いで A/H3（A 香港）亜型 39.7%、B 型 1.5%の順となっている一方、1 月に入ってから A/H3（A 香港）亜型の検出数が半数以上を占めています。

今シーズンのインフルエンザの累積の推定患者数は、第 6 週までで約 1,045 万人と 1,000 万人を上回りましたが、第 6 週の推定患者数は約 102 万人と 2 週間連続して減少が見られており、インフルエンザの患者数は今後さらに減少していくものと予想されます。一方、インフルエンザの流行はまだ継続しており、今しばらくは注意が必要です。